

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

中野小	学校	児童数	66
-----	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	13.59	19.23	34.61	44.03	60.00	9.05	157.16	21.63	55.64
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	14.65	17.63	39.37	39.86	50.71	9.23	151.67	13.92	57.45
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

「運動やスポーツをすることが好き」と答えた児童は、男子は80%で全国平均を約7ポイント・大阪市平均も6ポイント上回り、女子も63.3%で全国・大阪市平均より約9ポイント上回った。体力合計点は、全国平均より男子は2ポイント女子は、約3ポイント上回り、大阪市平均より男子は約4ポイント、女子は約5ポイント上回った。男女とも、握力・上体起こし以外の種目は、全国平均を上回り、1週間に運動を60分未満しかしない児童は、男子は、約11%で女子は約25%であった。男女とも全国・大阪市平均より多く、昨年度より運動する機会が大きく減少していると言える。運動しない児童とする児童の運動時間の差が広がっている。運動しない児童の理由として男子は場所や時間がない、一緒に運動する友だちがいないが挙げられていたが女子は運動が好きでないという児童が6割を超えていた。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

児童が意欲的に学習に取り組めるように、昨年に引き続き、体力向上の取り組みを進めた。運動委員会による体力向上週間でいろいろな遊具に親しみ、なわとび週間では短なわや大なわの記録を伸ばすことに挑戦した。2週間のランニングウィークスでは全学年で取り組んだ。運動場に3重のトラックをかいて学年別に安全に毎日走れるように工夫した。また、それぞれの取り組みの時には、頑張りカードを使用して低・中学年は、進んで取り組む姿が見られた。ランニングフェスティバルでは、学年に応じた距離を設定して、大川沿いの公園を使用して長距離走に取り組んだ。1・2年生も2km20分台で全員が完走した。この取り組みがシャトルランの結果につながっていると考える。授業の中でタブレットを端末等を活用して自分の動きを確認する機会や小グループや全体での話し合いを活かして友だち同士学び合えるような場を今まで以上に増やした。その結果、野球型ゲームやフラッグ鬼ごっこ・タグラグビーなど運動が苦手だと感じていた児童も友だちの励ましによって積極的に動けるようになった。また、中野っ子体操を年間通して全学級継続して行い、サーキットトレーニングなども継続して行っている。今後もどの子も運動に興味を持ち、日常的に体力向上に取り組もうとする児童を育てていく。運動場のバスケットコートでは、休み時間だけでなく放課後も多くの児童が自由に運動に親しんでいる。小体連のバスケットボール、サッカー、ソフトボールに加盟し、児童が運動に親しむ機会を増やしている。それぞれのスポーツに参加する児童も増えてきている。また、区の体力向上授業を生かして千葉すすさんによる水泳指導（5・6年）ゲストティーチャーによる陸上・マット運動などの特別授業、トップアスリートの夢授業、桜宮高校のサッカー部との交流など児童が運動が好きになりあこがれることができる機会を持っていて子どもたちは、毎年楽しみにしている。児童が生涯スポーツを親しんでいこうと思える体験をこれからも増やしていきたい。女子の運動をしないのは、運動が好きでないという理由を少しでも改善できるよう低学年から運動が苦手な子も取り組める内容を取り入れ、授業改善をしていきたい。